

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会 第42回四国ブロック大会	派遣期日	令和3年8月22日
報告者	高田 開	派遣先	とくぎんトモニアリーナ

1. 大会概要

大会名称	国民体育大会 第42回四国ブロック大会	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	各県4チーム（成年男子、成年女子、少年男子、少年女子）が出場し、成年カテゴリーはトーナメント戦、少年カテゴリーはリーグ戦を行い、成績上位チームが本年度三重県で開催される全国大会への出場権を得る。		

2. 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月22日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC：薦田氏（愛媛）	U1：玉田氏（徳島）	U2：高田
担当試合	（少年男子）愛媛 vs. 高知		
試合内容	前半は愛媛が速い展開のオフェンスでリードを奪う。後半高知はプレスディフェンスから流れを掴み第4Qで逆転するが、愛媛も粘り両者拮抗の状態が続く。最後の最後まで纏れたゲームは1点差で愛媛に軍配。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

まずPGCで、ゲームスピードにアジャストすること、そのうえでトランジションなど3 or 2のPeakと。Flashを確実に行うこと、トラベリングについて特に0歩目を適用しないケースについて明らかなものを判定することなどを確認した。実際にゲームはトランジションが多くクイックスリーのシーンがたくさんあったが、L→T、C→Tのスムーズな連携でミスなく終わられた。私自身の判定については、課題が残るゲームだった。自分のプライマリに責任をもって判定することの意識はとても強く持って臨んだ結果、“吹きのがす”ことは少なくなったが、反対にマージナルコンタクトもファウルとして取り上げてしまっていると指摘された。改めて、レフェリーディフェンスとRSBQの判定を見直したい。

前半はクルーとしても大きなミスはなく順調にゲームを進められていたが、第4Qから終盤にかけて点差がなくなりインテンシティが高まったときのレフェリングには反省点の多くあげられる。まず、点差が詰まったことでプレーヤーにもミスが増えることから、普段あまり起きないようなこ

とも起こりやすいという準備が必要と学んだ。さらにリバウンド争いも激しくなるため、アングル確保が絶対になってくるが、アジャストしようとした結果プレーヤーと重なってアングルを失うケースがあった。アングル確保は一步下がる等の動きだけでなく、ステイもそのひとつの手段であると実感した。

残り 1 分をきり 1 ポゼッション差の状況で、マジックタイムを掴んでクロック修正できたシーン、ショットクロックの継続 or リセットのサインをこまめに出していたことに対して TO から「やりやすかった」と言っていたことなど、良い点もあった。反省点は改善に向けて見直し、良い点は続けていきたい。

連日、TLG を担当されているレフリーとゲームを担当させていただき、常にゲームフローを察知することにアンテナを張っていると感じた。タイムアウト等で「今〇〇な状況だから、次××が起こりそうだから、△△に要注意」のような会話を多くした。この会話のおかげでアジャストできたプレイもたくさんあり、またクルーとしての安心感も違うと感じた。私が次回 CC でゲームを担当するときには (CC でなくとも)、これを意識して実践してみたい。

4. その他

群馬全中に引き続き、国体予選に派遣いただきまして誠にありがとうございました。仲地審判長をはじめ、日ごろお世話いただいております上級審判員の皆様に深く感謝申し上げます。

この 1 週間で学んだことを確実に自分の力にするとともに、グループ活動等で皆様に共有して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和3年度 四国ブロックA級 更新講習	派遣期日	令和3年8月22日
報告者	三谷 修司	派遣先	徳島県徳島市

1 大会概要

大会名称	令和3年度 四国地区国体予選	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	三重国体に向けての四国ブロック予選会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月22日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC: 三谷修司 U1:七種（徳島） U2:藤田公介		
担当試合	成年男子 愛媛 VS 高知		
試合内容	高さ、フィジカルともに勝る愛媛が前半で大きくゲームをリードする展開。大差のついたゲームとなったが、両チームとも力を出しあう好ゲームであった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判員に伝えたいこと 等 》

◎ベーシック

○メカニクス

「ボールサイドツェーにしましょう。」自分もよく口にするし、よく耳にする言葉です。いざコートに立ち、いろいろな情報が入ってくると、ローテーションができなかったり、タイミングが遅くなったりしてしまいます。今回のゲームでも、ローテーションのタイミングが悪くクルーに迷惑をかけることもあった。ゲーム後に映像を見る際に、なぜその時にそうなったのかということ、自分の言葉で説明できるように分析をしなければいけない。この繰り返しがベーシックなメカニクスの理解に繋がっていくのだと思う。講師の福岡氏からも今回の大会を通して、ローテーションの重要性を感じたという話があった。裏をかえすと、「もっとローテーションをしましょうね」ということだと理解しました。

○処置ミス0

ルールの理解は大前提であると思いますが、いろいろなところに目を配り、気を配りながらコミュニケーション（クルー間、TO、コーチ、選手など）をとることも処置ミスのないゲームに繋がるということを実感できるゲームであり、いい経験ができました。

◎トラベリング

今はよく重点項目としてあげられていると思います。意識はしているはずですが、あきらかなものもしっかり判定できるようにするために、映像分析をしっかり行っていくことで、グレーとして見えていたものが判定できるようになっていくはずですが、グレーでよかった？、グレートしてしまった原因を見つけて次に活かしていくことだと思います。

大変な時期ですが自己管理をしっかりとして、無理のない中で活動できるようにしていきましょう。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会四国地区予選会	派遣期日	令和3年8月21日
報告者	仲地祥吾	派遣先	徳島県徳島市

1 大会概要

大会名称	令和3年度国民体育大会四国地区予選会	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	三重県で開催予定の国民体育大会における四国ブロックの予選会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月21日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC: 仲地祥吾 U1: 山下渉（徳島） U2: 平尾翔汰朗（香川）		
担当試合	少年女子 徳島 VS 少年女子 愛媛		
試合内容	愛媛が終始徳島を圧倒し、快勝した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●正しい判定につなげるためのメカニクス・IOT

高校1年生が主体となるチームで、普段は担当することがないカテゴリの試合であった。プレーコーリングの振り返りとしてはRSBQの見極め、試合の流れを把握したベイスメントコールを意識しなければいけないと感じている。特にトランジションの中での判定で吹き急がない方がよかったものがあつた。正しい判定につなげるためにはベーシックなメカニクスと正しいIOTが不可欠である。今回の試合ではReferee Defenseをするという意識をもっと強く持たなければいけなかったと感じている。メカニクスの面ではセンターでのプレーヤーの捉え方に改善が必要である。特にローテーションの途中でトレイルからニューセンターが変わるとき、自分がどのマッチアップを捉えているのかを明確にしなければいけない。

●ゲームコントロールについて

試合の中でヘッドコーチのインテンシティが高くなっていた時間帯があつた。TFに該当するケースはなかったものの、ベンチに対しての声掛けやOW等でもう少し落ち着かせることができたと思う。試合の中で何をきっかけにしてフラストレーションをためているのかを把握し、よいタイミングでコミュニケーションを取れるようにしていかなければいけないと感じた。HCに対する対応は個人としてではなく、クルーの協力も必要である。TO等で正しい情報を皆で共有すること適切な対処につなげていけるように心がけたい。

4 その他

コロナ禍にも関わらず、今回の派遣にご理解とご協力を賜りました香川県協会の皆様に改めて御礼申し上げます。次年度は香川県開催のインターハイ、再来年度は全国中学が控えています。私個人のみならず、香川県の審判員全員がレベルアップし全国大会を迎えられるよう精進してまいりますので今後もご指導の程よろしく願いいたします。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会四国地区予選会	派遣期日	令和3年8月21日
報告者	田中 豊弘	派遣先	徳島県徳島市

1 大会概要

大会名称	令和3年度四国地区国体予選	大会期間	令和3年8月21日
大会概要	各県代表の選抜チームがU16（4県総当たり）、成年（トーナメント）のカテゴリー別で本国体への出場権を獲得する		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月21日	会場	とくぎんアリーナ
審判クルー	CC: 田中 豊弘	U1:大西（香川）	U2:檜垣（愛媛）
担当試合	徳島 VS 愛媛 U16		
試合内容	愛媛が終始リードするも、終盤徳島の追い上げがあり結果接戦となった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

ゲームの振り返り

●EOG

ゲーム終盤バックコートからサイドスローインの場面、時間を修正し徳島スローインで再開、残秒わずかで3Pショットを狙う場面の時にトレイルの位置をベーシックからスローより下（フロントコートより）に位置して工夫していればラストショットに対する確認、判定が正確に出来ていた。今後、RIQが不足していたばかりに最後の重要な場面において正しい判定ができない状況を作らないよう準備をしてゲームに臨みたい。

●クルーワーク

今回は初めて組むクルーで初めてミニ国体を担当する方、A級審査前の方と立場が色々な状況のクルーでクルーワークを作る上で難しい状況であった。ゲーム中コミュニケーションを取りながら工夫を試みたが終盤の大切な場面においてうまく発揮できなかったのは課題として今後改善したい。

4 その他

来年度には香川IHが控えており、今回の経験を審判・運営の両面で活かして行きたいと思います。今回の派遣に際しましては県協会から補助を頂き、貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会四国地区予選回	派遣期日	令和3年8月22日～8月22日
報告者	藤田公介	派遣先	徳島県徳島市

1 大会概要

大会名称	同上	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	各ブロックの代表が集まり、予選リーグを実施。各リーグ 1,2 位が決勝トーナメントに進出し、日本一を決定する大会。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月22日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC:三谷修司 U1:七種（徳島） U2:藤田公介		
担当試合	成年男子 愛媛 VS 高知		
試合内容	序盤から愛媛のオフENSカ・ディフェンスカが上回り、着実に得点を重ね勝利。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

1 デリバリー力

ノーコールに対して選手の異論表現があり、TFを宣する場面があった。TFを宣する少し前に、別の場所でリバウンドに対するファウルが宣せられた。しかし、TFを宣した後、リバウンドファウルが起きていることを知らなかったため、そのままTFのレポートに行ってしまうと、両ベンチへの再開方法に関するアナウンスも曖昧なものとなってしまった。本来であれば、レフリーが集まり、状況の確認・情報の共有・再開方法の確認を行なった後に、ファウルのレポート、次にTFのレポートに行くべきであった。

また、TFを宣した時に、全て自分で物事を進めようとするのではなく、シューターの確認、HCへの再開方法のアナウンス、TOとの連携（SCやスコアシートの記入方法）等について、クルーの中で役割分担を確認し、再開に向けてもっとスムーズにするべきであった。こういう時こそ1つ1つを丁寧に確認していくことで、不要なトラブルの回避に繋がっていきたいと思う。

2 レフェリーディフェンス

IOTの重要な項目の1つにレフェリーディフェンスがある。TやCにいる際に、オンボール・オフボールのプレイに対してディフェンスがどう守ろうとしているのか、その結果それがリーガルかイリーガルなのかを判定するためにレフェリーディフェンスに取り組むことはできている。

しかし、Lにいる時にビッグマンのリバウンドからのセカンドショットに行くプレイ、またブロックチャージなどのプレイに対してはオフenseのプレイに視野を当ててしまうケースが多い。特にオフenseの選手の身長が高かったり、オフenseのリアクションが大きかったりした場合にそうになってしまう。そういう時こそ、「何を判定しているのか」ということに意識を集中させ、オフenseのリアクションではなく、ディフェンスのアクション＝守り方がリーガルなのかイリーガルなのかを判定しなければいけない。そのためにディフェンスをレフェリーする訓練をより一層していかなければいけないと感じた。

3 ゲームコントロールについて

クルーの中で、また試合の中でどのようにCCMを発揮し、ゲームをリードしていくのかを考えて臨んだ。ベンチ管理についても同じで、私たち審判員が目指すべき方向にどのように協力してもらうかを考えながらオンザコートに立った。例えば、得点するたびに立ち上がり騒いでしまうケース、マスクを外しているケース、椅子に座らずにベンチエリアの横に座っているケース。このようなケースに対して警告を与え、HCとも話をしたが、もう少し上手くコミュニケーションをとり、どうすれば良い試合を一緒に作り上げるために協力してもらえるのかを考える必要がある。毅然としなければいけない場面もあるが、自分自身のコミュニケーションの取り方についても振り返って見直していきたいと思う。

最後になりましたが、今大会に派遣して頂きまして、香川県バスケットボール協会・審判委員会の皆様には感謝申し上げます。今後とも、ご指導宜しくお願い致します。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会四国地区予選会	派遣期日	令和3年8月21日
報告者	平尾 翔汰朗	派遣先	徳島県徳島市

1 大会概要

大会名称	令和3年度 国民体育大会四国地区予選会	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	三重県で開催予定の国民体育大会における四国ブロックの予選会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月21日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC: 仲地祥吾（香川） U1: 山下渉（徳島） U2: 平尾翔汰朗		
担当試合	少年女子 徳島 VS 少年女子 愛媛		
試合内容	高さ、フィジカルともに勝る愛媛県が終始ゲームをリードする展開。大差のついたゲームとなったが、両チームともに力を出しあう好ゲームであった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●ベーシックの徹底の重要性

今回、久しぶりの県外に出てという形で審判をさせていただきました。普段の県内でのゲームでは体感することができない接触、走力、戦術面等の面で高いレベルゲームが展開されること、また、普段一緒に吹くことができない方と一緒にクルーを組みゲームを担当するというなかで、普段とは異なる状況でレフリーをしないとイケません。その中で、1ゲームを担当し運営していく中で共通理解ができるのは‘ベーシック’だと思いました。メカニクスに加え、プレーコーリングやガイドラインなどの理解と実践を持つことが大切だと感じました。自分が現在目標にしている IH の舞台ではさらにレベルの高いことが繰り返されるのでベーシックなものをより理解を深め、実践していけるように精進していきたいです。

●RSBQ の捉え方

今回、担当したゲームの中で課題だと感じる事ができた1つが RSBQ の捉え方です。U16 というカテゴリーでプレイヤーの体格差、フィジカル差がある中で接触がインパクトがあるように見えてしまったり、RSBQ が崩れたように見えてしまっていたケースがいくつかありました。その中できちんと Referee Defence をし責任がどちらにあるのかを明確にしておくことが課題だと感じました。IH では外国籍選手と小柄な日本人選手の接触は当たり前でどちらに責任があるかをしっかりと判定し続けなければならないのでこの課題をいち早く修正していきたいです。

4 その他

来年度はいよいよ香川 IH が行われるので、IH のコートに立つため・新規 A 級になるため今回の経験を次の実践の場で修正して取り組めるようにベーシックの理解からさらに深めていき今後の IH 査定や A 級審査に臨みたいと思います。

この度は、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和3年度国民体育大会四国地区予選会	派遣期日	令和3年8月22日
報告者	浪越 由佳里	派遣先	とくぎんトモニアリーナ

1 大会概要

大会名称	令和3年度国民体育大会四国地区予選会	大会期間	令和3年8月21日～8月22日
大会概要	各都道府県代表のチームによる総当たりの大会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月22日	会場	とくぎんトモニアリーナ
審判クルー	CC: 浪越由佳里 U1:竹内薫（高知） U2:山田 佳奈（愛媛）		
担当試合	香川（少年女子） VS 徳島（少年女子）		
試合内容	ミス、バイオレーションが多くトランジションも多かった。粘り強くディフェンスをした香川が1点差で勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

・PGCの重要性

コロナ禍であるので、最短で済ませることは必要ですが、ポイントポイントはしっかり確認して臨む必要がありました。ベーシックの重要性、タイマー、ショットクロック管理、トラベリングはどこをポイントとして意識するか、前から当たってきたときはどう対応するか、フリースローバイオレーションを誰がどこを見て判定するのかなど、大切な部分はしっかりしていく必要がありました。できるだろう、分かっているだろうではなく、共通認識としてポイントを抑えたPGCを意識していくことが大切だと思います。今後には生かします。

・TOとの連携

体育館のクーラーがきかず、雨のため湿気もあり徳島県の方々が一生懸命モップや雑巾などをしてくれていました。ただ、協会の指示で何でもかんでもコートに入ってきていたように思うので、レフリーが呼んだときをお願いします。などと、初めに伝えておく必要がありました。

・クルーワーク

ダブルコールの際やローテーションの際に目を合わせることで、ポジションについて際にアイコンタクトを取ることなどでお互い信頼することができると思います。クルーが落ち着いてレフリーができるような工夫が私自身必要だと感じました。

4 その他

今回の経験を審判・運営の両面で活かして行きたいと思います。今回の派遣に際しましては県協会から補助を頂き、貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。